

起案野紙

大正二年七月廿一日起案
起案者 捺印

七月廿一日發付
發付係 捺印

發付後起 案者捺印

(提案)

總政本部長

大臣

副官

次官

參事官

第四部



外波

第三部



會計課



軍務局長



局長



經理局長



局長



服部

局部	受月日	發月日
軍令		
水路		
臨建		
教育		
艦政		
司法		
經理		
醫務		
人事		
軍務		
官房		

電按

大正二年七月二十一日

大臣

七月十九日電報上申軍艦千代田坂南附屬
 物旋盤換裝件認許

號番

0378

7-21

海軍省
持廻
↓
長官

至急

大正二年七月十九日 午五時三十分 局發
大正二年七月十九日 午五時二十二分 局著

受信者 **大臣**
發信者 **吳鎮長官**

電報譯

陸軍省

千代田 砲臺 附屬物 檢査 使用 適セザルヲ以テ

豊橋 ノモノト 換裝 方 申請 アリ 必要ト 認ム

三日 以内ニ 檢査 見込 手續 アト ヨリス 御

認可 アリ タシ



(花崎)

陸軍省
7-21

0380

三三三

海軍省

第四部
第三課
會計部

第五九四六

大正二年八月二十日

吳淞軍工廠長村上

八

海軍大臣男爵齋藤實殿

軍艦千代田、豊橋、旋盤換装ノ件

軍艦千代田、豊橋、旋盤換装ノ件
 理ヲ要スル箇ノ時、力ニ及ビ且以同艦ノ如キ第三艦隊ニ編入中
 艦ノ主要用機材ノ用途頻繁ナル所、在テハ小型ニテ使用
 ニ適セサルヲ以テ更ニ有効ナルモノト換装方申請アリ、必要ト認
 ヲ候ニ付、目下用途少キ軍艦豊橋、旋盤換装ノ件、屬物ノ三基、
 内小型ノモノ一基ヲ千代田ノモノト換装致度候條、御認許
 相成度ニ奉方、換装重量増減ノ員概算等左記ノ通り

官房第三九一號

海軍

海軍省

松平

副官

8-26

8287

2820

納社會安合新

6382



右 上 申 入

逕テ本件ハ通敷電信御認許済ノモノ有之而テ工事費ハ
本年度配付ノ送取送兵及修理費一取修理費豫算額内
ニ支辨ノモノ有之候

一 工事方格

別番(11-11347)ノ通り

二 費概算

金八拾八円五拾参銭也

内 譯

金四拾七円五拾五銭

千代田分

金四拾四円九拾八銭

豊橋分

三 重量増減表

別紙ノ通り

(別番四葉及別表二葉添付)

量面四葉保管者山

(了)

重量増減表及

海

軍

龍
何
子

起案紙第一號

大正二年八月廿七日

起案

八月廿六日

發行

村

家者

松

提案

陸軍部

陸軍部

大臣

陸軍部

副官

次官

參事官

軍務局長

局長

總務局長

陸軍部

局長

陸軍部

陸軍部

大正二年十月十六日

大臣

吳工字第五號、四五三上申軍艦春日

新設建造水仕衣道、件認許

官 二二三三

櫻 20 皇十四廿三 軍務局接受

0385

司令長

陸軍部

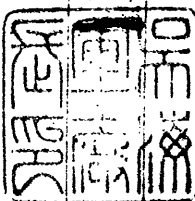
吳工第五四五六

大正二年八月二十日

吳海軍工廠長村上格

八廿

機長



大臣男爵齋藤實殿

第四 軍艦春日新設造水装置ノ件

本艦在東ノ造水装置ハ強化容量一晝夜十噸ノモノ參台

ヲ前部揚錨機室ニ設備シテ壹台ハ飲料水専用ニシテ他

二台ハ飲料水並水兩用トス尚ハ強化容量一晝夜二十噸モ

二台ヲ機械室ニ在テ水専用トシテ設備シテ今回汽並水管

式ノモノト入替ノ結果在来ノ儘ニテハ在テ水ノ補給量不充分ナリ

ヲ以テ本特定修理ヲ機トシ小形ノモノ全部ヲ陸揚シ其補欠

トシテ機械室後部兩舷ニ比較的使用セ尤機湖科倉庫

官房第三三一號

海軍

納社會資合紙佐土

0387

アルヲ蒸化室ニ當テ全室内ニ蒸化能力約二十噸ノモノ各港各
 ヲ新設シ且ツ小型蒸化器附属蒸溜器及諸唧筒ヲ機械室
 内ニ移轉セシムル方適當ノ計畫ト思考セシ候條御認許
 相成度ニ事方按入費概算重量増減等左記ノ通り
 右 上 申 ス

左 記

一、工事方按

別番ノ通 (一、二、三、四、五)

二、入費概算

金四千六百円也

但シ本費用ハ特定修理費配付豫算内ニテ支弁豫定

三、重量増減

別表ノ通り

(別番四葉及別表重量増減表一葉添フ)

重量増減表

(子)

番面四葉回庫保番山

海 軍

起案 紙

大正二年十月十四日起案
起案者 捺印

十月二十七日發付
發付係 捺印

發付後起
案者捺印

提案

總政本部長

第四部

外波

大臣齊

副官

第三部

田

大官

參事官

會計課

田

軍務局長



局長

田

九

經理局長



局員



服部

大正二年十月二十七日

大臣

吳工第五號、四五、二九上申軍船生駒重
油混燒用油唧筒改造、件認許ス

番號

官房第三三〇八號

一

三

大臣官房

軍令	水路	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局、部
						十七日			二十日		受月日
											發月日

0389

艦政本部

司令長官

艦政本部

呉工第九師四五九

大正三年八月二十一日

呉海軍工廠長村上格

八月二十一日

海軍大臣男爵齋藤實殿

軍艦生の重油混焼用油唧筒機械改造件

本艦在米重油混焼用油唧筒制式ハスウエーツ式ニシテ同用

唧筒トシテ起働困難ナルノミナス尚時々停動スル事有之

其動作不完全ニシテ重油混焼唧筒トシテ不適当ト認ラレ

候ニ付本特定制修理ヲ機トシ汽管ノミラウエーヤール式ニ改造致

度候條御認許相成度ニ事方按費用概算増減重

量等左記ノ通り

右様申ス

官房第三〇八號

海軍

松平

26

2. 1. 22

納社合資合資佐土

0391

迄テ工事ハ同般特定修理費配付豫算額内ニテ支弁ノ豫定

一 工事方按

別番(丁二三七九)ノ通り

二 入費概算(四台分)

金壹千五百四拾円七拾銭

内譯

金九百五拾六円參拾銭

工費

金五百八拾四円四拾銭

材料費

三 重量増減表

別紙ノ通り

(別番二葉及別表一添)

歯面式葉保管商庫(香山)

(了)

重量増減表(昭和十一年)

海軍

納社會資合紙佐士

0392

起案野紙

大正二年七月廿八日起案

案者 捺印

八月十八日

日發付

發付係 捺印

發付後起 案者捺印

提憲

憲政本部長

大臣

次官

參事官

副官

第四部
第三部
會計課

大正二年七月廿八日

吳鎮司 司令長官宛

大臣

軍艦中隊 燃料油管装置改造件

八月廿日

管房第一三二一號

(第六)

軍令	水路	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
								八月廿日	軍務局接受		受月日
											發月日

0393

軍艦平戸矢矧^(艦七)重油管装置改造工事施行

スヘシ

但海軍航政本部長ヨリ工廠長宛通牒ノ工事
方案ニ據リ役務ノ都合ヲ見計ヒ認許ヲ
得テ着手スル儀ト心得ベシ

右訓令ス

(終)

官房第二三三二號

大正三年七月廿八日 大臣

第二船隊司令長官宛

軍艦平戸矢矧^(艦七)重油管装置改造ノ件

本件ニ関シ別紙寫ノ通^(通)鎮守府司令長

海軍

官宛訓令候條姑旨心得へし
右訓令ス

別紙寫一通添

統

(理由) 使用実験ノ結果至急ノ場合ニ應スル為メ重油

搭載ノ速度ヲ増大スルノ必要アリ

(花崎)

0395

幸重増減表
四百三枚
國産拾納

號一第紙部案起

明治二十二年九月

日 起 案

九月廿三日發行

提 案

艦政本部長

第三部長 福田

部 員

大臣 海

次官

參事官

副 官

第一部長

砲 壇

會計課長

電 氣

豫 算

軍務局長

局 員

田 島

丸 山

丸 木

大 塚

大正二十二年九月二十三日

海軍大臣

吳三才四男、五三、軍艦春日公素庵寺改造

海軍省 第三三九四號

海 宣

官 九

軍務局接書

發付後是 田

0396

件認許ス

(別件同前以筆区却分條)

(終)

0397

封
送

陸政本部

第三部
第一節

會計課

陸軍省



九月二日

陸軍省第四號九二一

大正二年八月三十日

吳海軍工廠長村上格

陸軍大臣男爵齋藤實殿

軍艦春日火藥庫等改造ノ件

軍艦春日日前部十吋中央六吋火藥庫第一第三水雷
庫及爆糸庫温度上昇甚敷熱ヲ以テ改造方

本艦長ヨリ請求ニ依リ取調候處別紙ノ通り改造ヲ必要
ト認メ候條施行方御認許相成度

右
上
申
ス

二三九四

(了)

陸軍省會計課

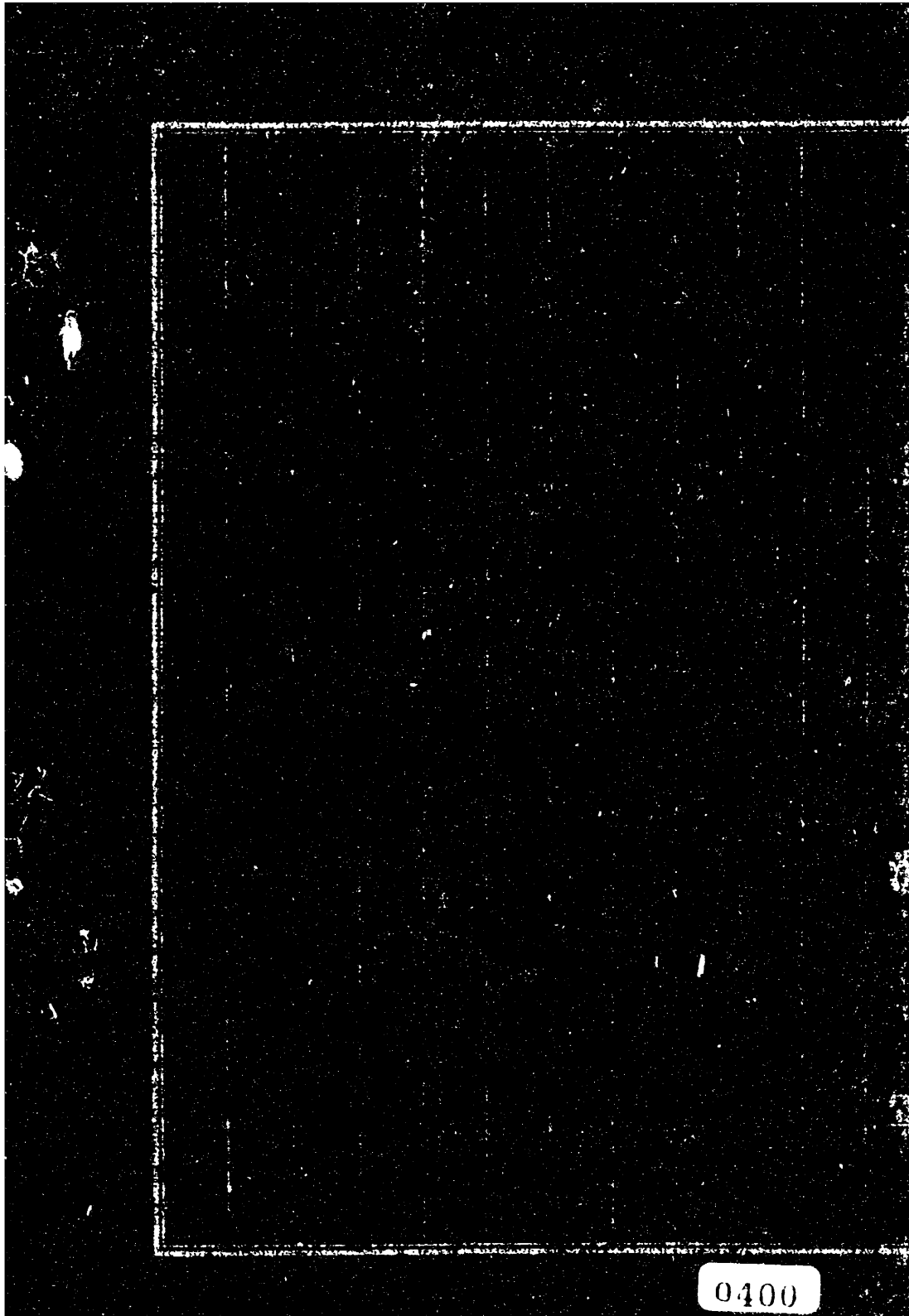
0398

海軍

圓艦春日前部拾吋中央部六吋彈藥庫等發煙機室通風管置座工事立案

テ
八九六
七 = 正九

0399



軍艦春日前部拾吋中央部六吋彈藥庫

并發電機室通風裝置改造工事方案

一、前部拾吋中央部六吋彈藥庫通風裝置改造及是に伴フ

發電機室通風裝置改造別圖及右記要領、如シ

イ、發電機倉庫自然給氣筒下拾吋彈藥庫電勵給氣筒

連結セルヲ改造シテ拾吋彈藥庫給氣筒ヲ新設孤獨

セシム

ロ、發電機室自然排氣筒ト發電機室及空所電勵排氣筒

ト連結セルヲ後者ヲ新設獨立セルシム尚發電機室排氣

用電勵送風機ハ其能力小カテ以テ更ニ三馬力電勵

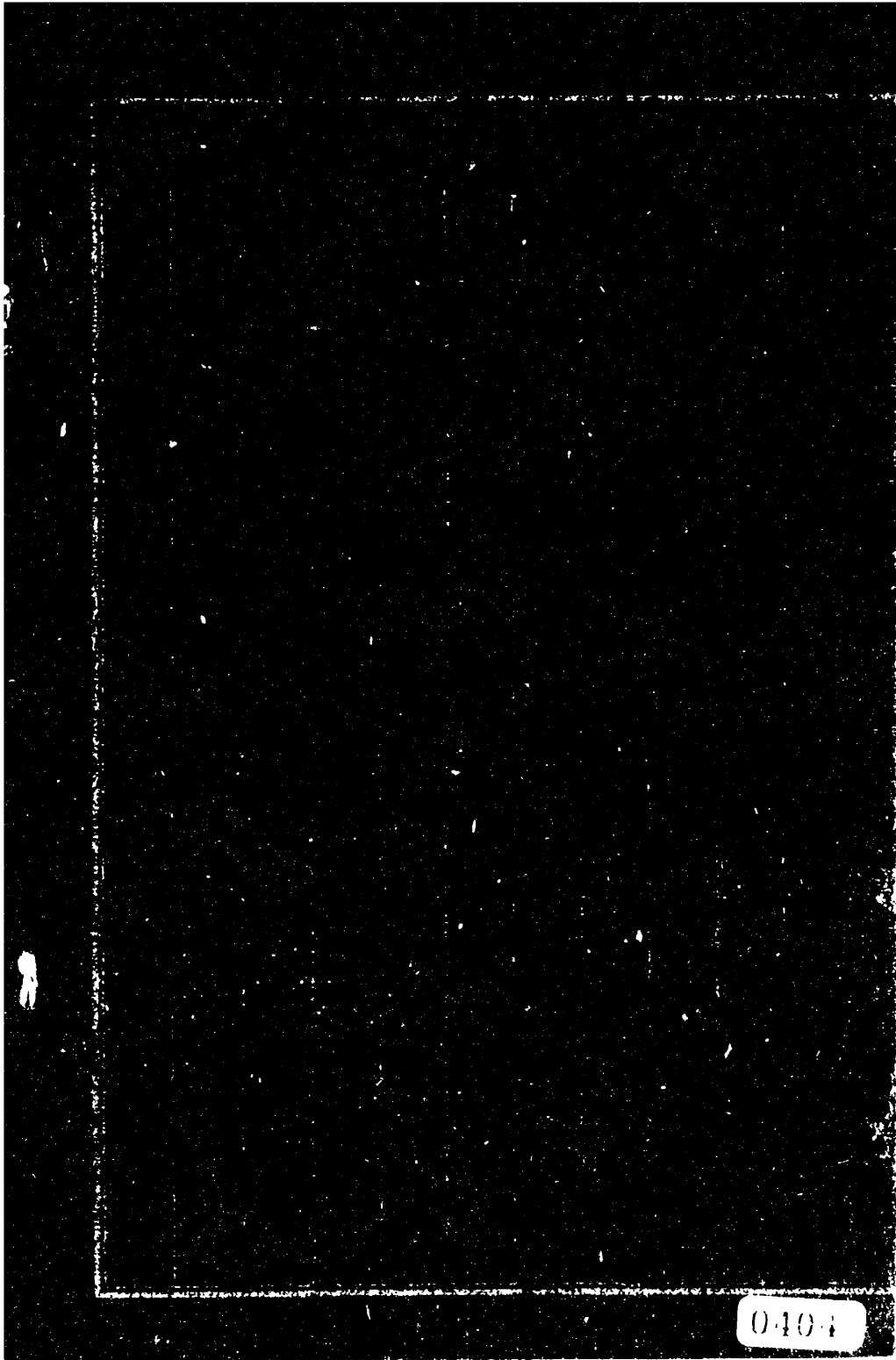
送風機ヲ附加ス

0401

ハ 發電機室及倉庫用電働給氣筒ハ汽罐室上部
 高温度ノ箇所ヲ通過スルヲ以テ給氣用トシテ其目的
 ニ適セス且罐室通風面積ヲ減スルヲ大ニテ以テ
 是ヲ取リ拂ヒ發電機倉庫用自然給氣筒ヲ以テ更
 是ニ電働送風機取リ拂ヒモ之ヲ附ス
 ニ中央部六吋彈藥庫ノ給氣ハ現在電働送風機ヲ以テし排氣
 ハ自然ナリシカ是ヲ給氣ハ現在依トシ排氣ハ三馬力電働
 送風機ヲ附ス

増重量
 施工日數

0402



0404

アジア歴史資料センター

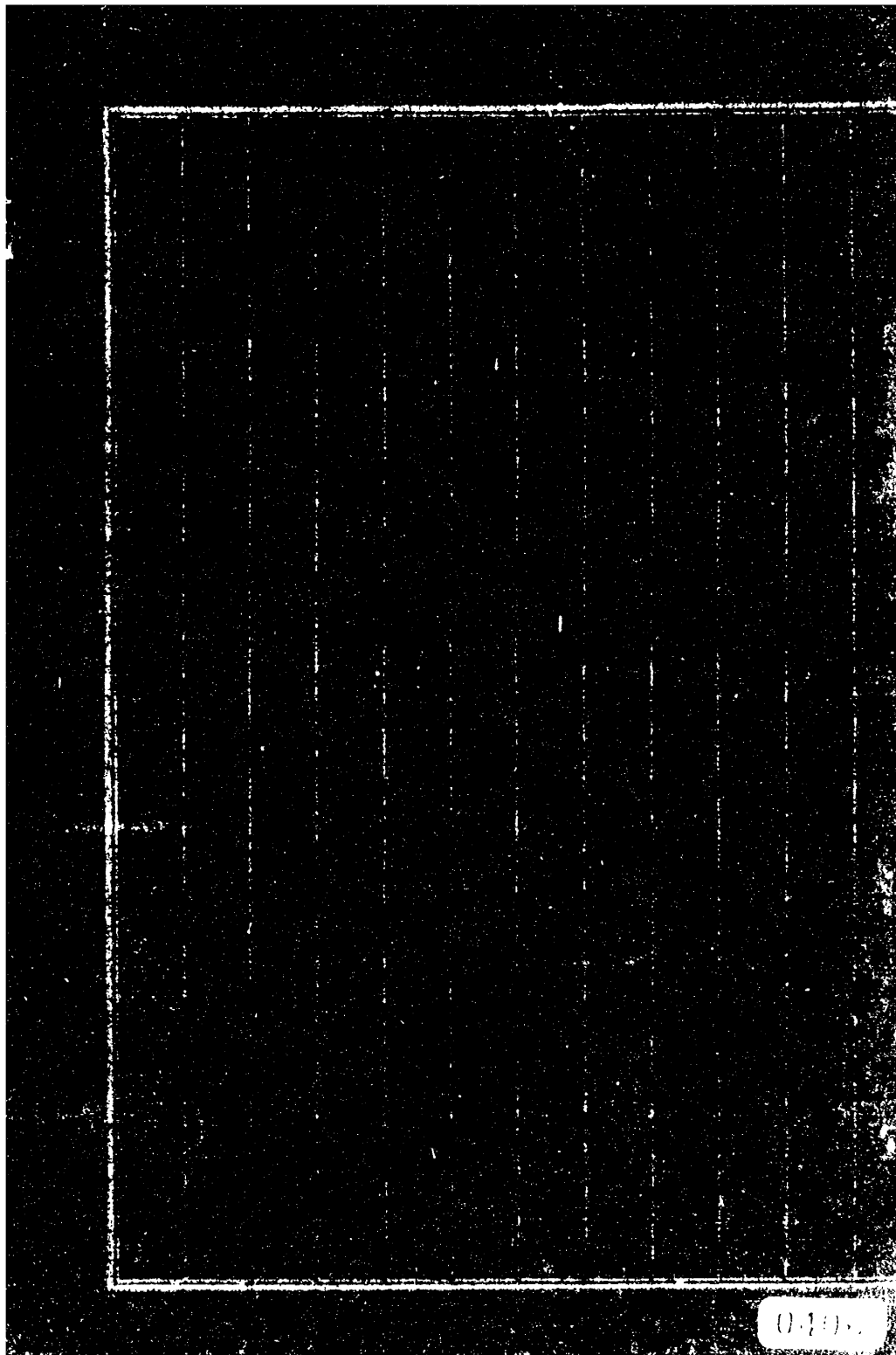
Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

軍艦春日第一及第三水雷頭司令部爆發藥庫防範器具備増設工事方策

テ
大正六
年六月
八

010.



軍艦春日第一及第二水雷頭部及

爆發藥庫防熱裝置增設工事方案

一、第一番水雷頭部及爆發藥庫、現在左壁、コローヤ近

参考半アスベスド及四分三吋コルク、防熱裝置アルヲ以テ

更ニコローヤ以下三吋、コルク粒板及八分五吋、亜米利加板

ヲ天井前壁及甲板ニ吋、コルク粒板及八分五吋、亜米利加

板ヲ張ル後壁ハ二吋、木板以テ要具ト仕切リ以テ現在、

低トス

二、第三番水雷頭部及爆發藥庫、周圍防熱裝置

ナラ尺前壁、二吋木板以テ要具庫ト區分サレテ

先ヲ以テ左壁ニ三吋、コルク粒板及八分五吋、亜米利加板

三、別圖参照ヲ要ス
加松ヲ張ル
ヲ天井前壁及甲板ニ寸ノ寸ノ粒板及八分寸ノ割葺

増重
工日数
工費
材料費
合計

片
積

此
四
寸
ノ
寸
ノ
粒
板
及
八
分
寸
ノ
割
葺
ノ
工
日
数
及
工
費
ノ
計
算
ハ
別
圖
ニ
示
ス

040

軍艦春日前部中六部六河津庫奉奉電機室通風

機室及進三奉方案

(水雷部)

發電機及倉庫空所餘氣用四馬力電動機運風機三馬力電動機
路取付。移轉先々奉新級二(一)發電機室排氣用三馬力電動
機用名及中六部六河津庫排氣用三馬力電動機或台對
別番、如ク電路ヲ布設ス

重量 別表(海)

所置長等々

二奉日敷 二十日同

經費 材料費 貳百七十九圓零九錢

目

0409

重号係直表
四角七
國庫格納

起案紙第一號

胡

二年九月

日起案

起案外

九月十八日發行

發行後起

家考

提案

總政本部長

第三部長

部員

大臣

副官

會計課長

次官

參事官

軍務局長

司員

司員

軍務局接受
九月十日

大正二年九月十八日

海軍大臣

佐藤第四号、二五九軍艦薩摩前部

發送

官房第二四〇〇號

海軍

九月十日
官房接

0411

艦政本部

九月一

左廠第

②第

五九

大連三

八月二十五日

係海軍工廠長上山善三

實殿

陸軍省
大連三
八月廿六日

薩摩前部揚艇鋸撤去件

軍艦薩摩前部揚艇鋸撤去方寸付公艦長ヨリ別紙

寫通リ請求有之精査候處必要ト認メ修條御認許

相成度

方上申

工事方案ハ費概算等調書

繪長ヨリ請求書

量修成表

官房第二四〇〇類

海軍

(刷印會成製 保當)

0413

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

軍艦薩摩前部揚艇鉸撤去工事方案
並入費概算等調書

一 工事方案

前部揚艇鉸ヲ撤去シ從テ通船及「カッター」ノ格納
位置ヲ別圖ノ通り変更ス各艇ハ凡テ「ダビット」ニ
依リ順次ニ揚卸シラナシ移動「クラッチ」ニ依リ運搬
スル者トス

一 入費概算

合計金 四拾四 六拾錢

工費金 三拾四

内 譯

材料費金 五四

附屬費金 五四 六拾錢

海

0414

一、工事日子

着手後二日間

一、重量増減

別表ノ通り

依保保綜合資會社

0415



薩摩第一号、五四

大正二年七月十日 於佐世保

薩摩艦長 上村 経吉

佐世保海軍工廠長 土山 哲三 殿

前部揚艇艇鋸撤去ノ件

品名 材質 數 稱 數量 寸法 摘要

前部揚艇艇鋸 木 本 片 張 ^{一七二七}/_{三七七五} 横須賀海軍工廠備付

理由 本艦ニハ前部及后部ニ各片個宛揚艇艇鋸ノ備付アリテ

后部ノモノハ汽動艇三隻及大艇一隻ノ出入ノタメ用途多

ク實ニ必要欝ク可カラサルニ及ミ前部ノモノハ用途上一定

ノ目的ナキノミナラス臨時ノ用途トシテモ何等ノ必要ヲ見

出ス能ハス本艦竣工以來今日迄未タ一回モ之ヲ使用シ

タルコトナリ唯徒ラニ場所ヲ塞キ保管上ノ煩ヲ呈シ居ル

ノミナルヲ以テ此際撤去セラル、方利益ナリト思考ス
但シ前部揚艇機ハ防衛網展張及収納等、タメ必要ナル
ヲ以テ存置ヲ要ス

右請求ス

(終)

艦政本部

109

起案單紙

大正二年九月十日 起案者 松南

十月二十日 發付係 松南

發付後起 松南

(提案) 艦政本部長

大臣

次官

副官

參事官

第三部

會計課

第四部

外渡

松南

軍務局長

局長

局員

松南

經理局長

勝

局員

松南

松南

大正二年九月二十日 大臣
横廠第四號ノ三七上申軍艦音羽送
風機械改造ノ件認許ス

清水

二五〇三

大臣官房受

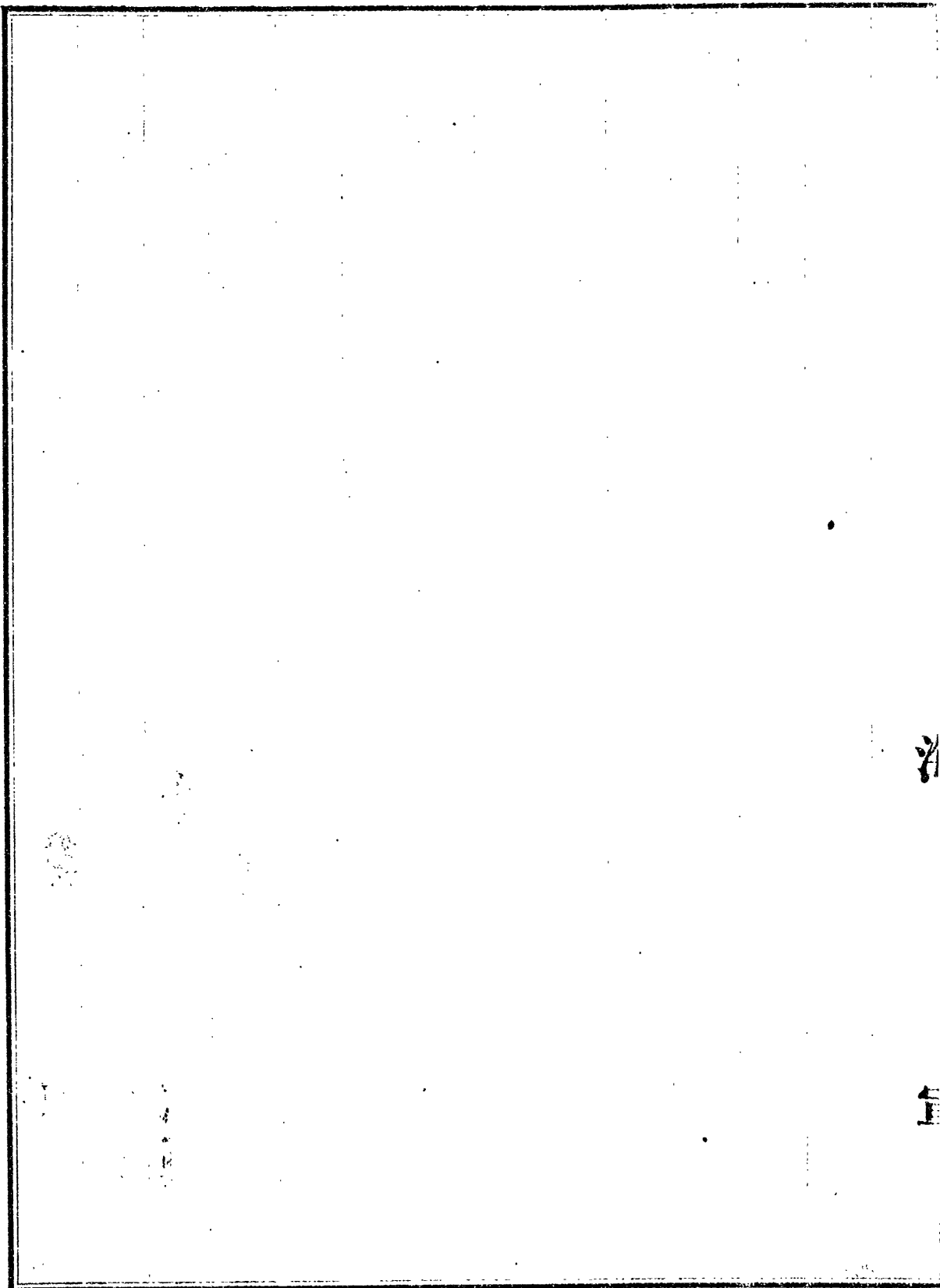
十月三日

終

軍令	水路	臨建	教育	鑑政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
						ナ、ニ、ニ、			松南		受月日
									松南		發月日

10-18

0418



洋

宣

0419

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

九月十六日



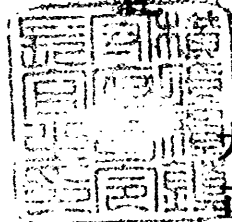
第四部
第三部
會計課

横廠第

大正

二年九月

十日



参謀長

機関長

經理部長

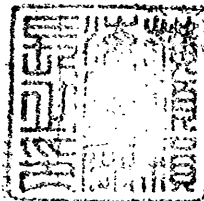
参謀

副官

機関官

横須賀海軍工廠長加藤定吉

海軍大臣男爵齋藤 實殿



29.17

大正二年九月十日

9-18

1782

0420

音羽送風機械改造ノ件
軍艦音羽送風機械ハ同艦余力汽走ノ際ハ計畫
回轉數四百ヨリモ遙カニ増加ヲ要スル同艦新造
公試運轉及今回行ヒタル陸上試験ニ就テ見ルモ
明カナル儀ニ有之候然ルニ同機械ニハ高速力機械ニ必
要ナル注油装置ニ缺クル所アルヲ以テ全力使用ノ際ハ
之レ力取扱ニ手數ヲ要スルヲト大ナルニ付在來ノ機械
一部ハ改造ヲ施シ別圖ノ通り強壓注油装置ノモ、

官房第二五〇三號

ト致度候條御認許相成度

右申上

追テ之ニ要スル工事費ハ軍事費、造船造兵及修理
費造船材料物品費一概修理ニテ支辨可致候

工事方按入費概算書
重量増減表
普用艦長改造請取字

港縣
或港縣

島面港縣香山
重増減表

月

0421

軍艦音羽送風機械改造工事方按並入費概算書

工事方按

各機械ノ下部軸承臺、吸鈎棒、滑弁棒等ヲ改造
シ強壓注油唧筒、區劃板等ヲ設クルコト圖面ニ記載
ノ通リ

工事費概算金二千二百八十圓

附屬費共

内 工 費金千三百圓
材料費金九百八十圓

十臺分

工事豫定日数

三ヶ月

音羽第八六號ノ七(拔萃)

大正元年十一月二十五日

吉田 音羽艦長

加藤横須賀海軍工廠長殿

音羽機關部改造ノ件

罐之部

四、送風機械ノ改造

現今ノモハ力量少シ失シ計畫回轉四〇〇ニ對シ六五回轉
ニテ運轉スルモ尚ホ通風壓力クダラ得ルニ過サルノ状態ニ
アリ人全力發揮ヲナスニハ少クモ通風壓力ニ吋ニ達ス如キ強カノ
送風機械ト取換スラ要ス若シ取換サレハ改造ノ上強壓注油裝
置トナシ各運動ノ中心檢査ヲ行ヒ摺合ヲ必要トス

右請求ス

(終)

海軍

封筒一枚
封筒一枚
封筒一枚



起案紙第一號

大正二年十月

日起案

提案

總務部長

大板

次官

副官

參事官

會議議長

第四部長

第三部長 福田

部員

軍務局長



局員



2. 十月廿五日
軍務局長

大正二年十月廿五日

海軍大臣

陸軍部第四号ノ三八軍艦音羽各艦室函風筒

發送

二七一九號

二

0424

郵政 10-20

10-20

10-20

軍艦取造件認許ス

(別冊之業区部分係) (見)

理由

本工可比較的多数ノ費用ヲ要スル如キニ本艦之新
造ルニテハ尙ホ十数年アリ艦ノ大修理及強壓等用
風候ノ改良ヲ行スル際ニハ同時ニ施行ト置ク
得ルナリト認ルニ由

0425

十月八日

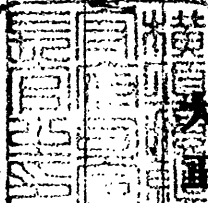
艦政本部

第四部
第三部
會計課

九二七九號

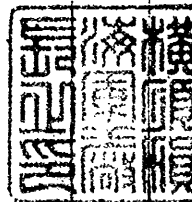
橫廠第 四

二年十月四日



海軍大臣男爵齋藤 實殿

橫須賀海軍工廠長加藤定吉



參謀長

機關長



參謀

副官

機關官



橫須賀海軍工廠
大正六年十月六日

四 10-1



軍艦音羽各罐室通風筒
装置改造件

本件別紙寫入通請末有之候處別回
御取許相成度
右艦船造修或驗検査規則第四十五條
依り上申下

官房第二七九號

海軍

0426

工部方案並入賞概算書一枚
國有財産二系 重要増減表一系
清未書寫一枚

三

0427

造船部

軍艦青利艦室通風頭及ドラウの改造工事方案並
入費概算書

方案

下現在通風頭(至参考時)ヲ四拾吋ニ改正ニ尚ホ之レニ伴

ヒ頭部旋回装置ヲ改正スル事

下防衛甲板ハ前面ニ示ス如ク切り取り通風ドラウニ供給

面積ヲ大ニシアルマーケレケレヲ増設スル事

入費概算金四千六百貳拾七圓貳拾四銭

内訳

工 費金貳千七百七拾九圓

材料費金一千八百拾九圓

降屬費金六百參拾八圓貳拾四銭

工事日数

格五日間

右之通

大正二年十月一日

横須賀海軍工廠造船部長浅田増次

0429



音羽第四三號三三

大正二年九月十八日

音羽船長 田代慶次郎

横濱賀茂海軍工廠長 加藤英吉殿

船体部 改造請求ノ件

一各機室通風筒装置

十個并

理由各機室通風筒全降路及扇車圍ハ狹隘シ

于空氣供給不足ナルヲ以テ各部擴大改造ヲ要ス

右請求ス

陸

横濱音羽船第四號

0430

供覽

海

艦政本部

軍務局

吳鎮第一五四八號二

大正二年十月二十七日

吳鎮守府司令官代理

海軍少將大澤喜七郎

第三

會計課

海軍大臣野澤齋藤 實毅

局發給 船着業修理部外に於て施行す

本付：別紙寫英之艦隊第七號、二九、二

ノ通り通知有之候、艦船造修試驗検査規則

英五十二條

右報告ス

(別紙二葉添)

海軍

大正二年十月五日

0431

此船は長官の命令で南京に到着した

第三艦隊第七號一九二二

大正二年十月七日於南京

第三艦隊司令官

吳鎮守府司令長官宛

驅逐艦若葉九月十七日下関入港際子日其
 艦首ニ流着シ艦首水線ニ損傷ヲ蒙リ
 修理ノ必要ヲ認メ候モ急速ノ際艦船造修
 試験検査規則第四十一條及今第四十二條
 ノ手續ヲナサシムルノ旨ナカリシヲ以テ今第五
 十二條ニヨリ上海オールドックニ會社ニ於テ入
 渠修理ヲ命シ候處今艦ハ九月二十三日入渠
 ロハユヲ四ノ一ノ五ノ五ノ五ニ於テ修理一ハ五ノ一ノ五

0432

SHANGHAI, 30th. September. 1913.

M. I. J. N. T. D. "WUJIA"

TO THE SHANGHAI DOCK and ENGINEERING Co., LTD. Sh.

1913

1913.

To Pumping out deck, laying special fore and aft heel blocks, dishing vessel and employing divers to ensure the vessel taking the blocks properly.

~~NO. 1~~ No. 1 shearstrake plate to be cut out, faired and replaced.

No. 2 plate in 1st. strake below sheer to be cut out, faired and replaced.

No. 1 plate in 2nd. strake below sheer to be cut out and removed.

No. 1 plate in 3rd. strake below sheer to be cut out, faired and replaced.

~~NO. 1~~ No. 1 shearstrake plate to be cut out, faired and replaced.

No. 1 plate in 1st. strake below sheer to be cut out, faired and replaced.

No. 1 plate in 2nd strake below sheer to be cut out and removed.

No. 1 plate in 3rd strake below sheer to be cut out, faired and replaced.

No. 1 plate in 4th strake below sheer to be cut out, faired and replaced.

No. 1 plate in 5th strake below sheer to be cut out, faired and replaced.

No. 1 and 2 frames on port ^{and} starboard sides to be faired in place.

Deck to be cut out, faired and replaced.

Including the necessary time in dock to carry out the foregoing, as per our estimate dated 24th. September 1913.

0434

TAHS. 1,670.00

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>